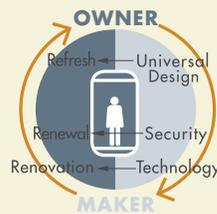


# リニューアール探検隊が行く!



## 篠島観光ホテル大角

愛知県知多半島の先端にある篠島はタイ、フグなどの海産物に恵まれた美しい島だ。この島の観光化に向けいち早くホテルを建設し、さまざまなアイデアで篠島ファンを作り上げてきた功労者が篠島観光ホテル大角 代表取締役の新美義之氏だ。新美氏は、顧客満足のために島で最初にエレベーターを導入したが、さらなる快適性と安全性のために昨年6月に思い切ってリニューアールを決断した。



### 「東海の松島」篠島で最初のホテル

名古屋から電車で1時間半程度、愛知県知多半島の先端にある師崎港から4 km程度の海上にある周囲7 km弱の篠島は、古来より「東海の松島」と呼ばれて、その美しさをたたえられてきた。

海水浴場として最適の天然の白い砂浜から見る海は絶景で、いつまでも見飽きることはない。

この砂浜を望む場所に建つ、島で最初のホテルが篠島観光ホテル大角である。4階建てのビルと、その横の高台に建設された5〜7階部分からなる施設で、収容人員は一般160名、和室25室、洋室15室を備えている。

リニューアール探検隊

隊長

篠崎正彦

東洋大学工学部建築学科准教授。

1968年東京都生まれ。専門分野は、建築計画と環境行動研究。特に、都市での生活様式と住居、施設の関係を研究している。現在、ベトナムにおける集合住宅の調査研究を進めている。

隊員

山田 花子

篠崎先生の研究室でベトナム建築を学ぶ。趣味はピアノとフルート。



**エレベーター・7階のりば**

建物は海に面した高台に建てられており、すべての客室、そしてエレベーターホールからも、海と砂浜が一望できる。

同ホテルの代表取締役である新美義之氏は、島のリーダー格で、今年で84歳。若い頃は船長や網元として漁業で生きていたが、戦後、旅館業に転じた。64年には島はもろんのこと、知多半島でもいち早く4階建ての鉄筋ビルのホテルを建設した。

その後、5〜7階部分も増築。平日は高齢のお客様さまが多かったことから、顧客サービスのために新美氏は81年、島で最初にエレベーターを導入することを決めた。

「サービス業はお客様の要望にこたえ、喜んでもらわないといけない。今こそ篠島は観光地として認知されるようになったが、当時は漁業の島で、ホテルなど他になく、集客のために名古屋、東京、大阪、京都まで出かけ、旅行会社や鉄道会社と掛け合ったものです。島にせっかく来てくれたお客様さまに満足してもらいたいと一所懸命やってきました」

しかし、5〜7階部分が建つ下は厚い岩盤で、ロープ式のエレベーターを設置するために必要な深い穴が掘れなかった。観光地のため、建物についても13mという高さ制限もあり、屋上に機械室を作ることもできない。そこで、屋上機械室も深い穴も不要な油圧式エレベーターを設置した。

当時、篠島にはトラックが入れるような道路も整備されておらず、機材類をリヤカーで高台まで引っ張り上げるといふ苦勞をしながら工事したという。

**お座敷ゆでだこを生み出したアイデアマン**

篠島の位置する伊勢湾口は絶好の漁場となっており、タイ、フグ、タコ、シラス、ハモなどの豊富な海産物が水揚げされる。特にトラフグは下関と並ぶ産地であり、その味は折り紙付きだ。

新美氏はこれらの海の幸を活かして、タイやタコのしゃぶしゃぶやフグ料理、ハモ料理などメニュー

新美義之氏  
篠島観光ホテル大角  
代表取締役



篠崎隊長の  
ここがポイント!



## ホテルのシンボルとしての エレベーターの活用を考える

**離** 島における建物内のエレベーターでは、万が一閉じ込めが発生したとき、メーカーなどがすぐに駆けつけることが難しく、復旧に長時間を要する危険性が高くなります。

特にホテルでは安全が重視されますから、今回、リニューアルで停電時自動着床機能が装備されたことは、大変意義があると思います。

また、篠島を訪れるお年寄りの観光客も多いようですから、なおのこと安全の確保は重要でしょう。リニューアル後の操作盤などのボタンデザインも見やすく、高齢者にはふさわしいのではないのでしょうか。

篠島はとても景観の美しい島で、特にホテル大角の前に広がる浜辺の白砂と海の青さは絶景です。

こうした景勝地においては、エレベーターも乗り心地と安全性だけでなく、もっと存在を演出して見せる方法もあります。普段、エレベーターは見えないところに隠れた存在ですが、それを敢えて表に出し、デザインとして観光客に見せるわけです。

よく、大型ホテルや商業施設などで、ロビーからエレベーターシャフトを見える位置に設置して、デザイン性の高いかごを用いているケースがあります。これもエレベーターをひとつのランドマークとして活用しているわけです。

同様に、篠島のような観光地では、わざと外側から見える位置にエレベーターシャフトを設置し、デザインを施して、目立つようにすることで、ホテルのアピールポイントにすることも可能です。斜面に建つ建物では、エレベーターシャフトを中心として、そこから各建物に渡り廊下を通すという建築デザインもあります。エレベーターを単なる移動の手段として考えず、他の要素を盛り込むと、使う人がウキウキするような心に響く存在になるでしょう(談)。



篠島観光ホテル大角 (おおすみ)

800mもある美しい砂浜を見渡す場所に建つ同ホテルは、夏は海水浴客で賑わい、日本有数の漁場であることから釣り客も多い。一般客は160名、団体は180名収容。7階には120畳の大宴会場がある。露天風呂、サウナもあり、眺望と料理が自慢。

■住所: 愛知県知多郡南知多町大字篠島字堂山101  
■TEL: 0569-67-2039

を工夫してきた。アイデアアマンだけに、団体客向けにお座敷で生だこをゆであげる仕掛けなども作った。顧客第一主義の新美氏にとって気がかりだったのは油圧式エレベーターだ。導入から27年経ち、経年劣化による段差や乗り心地も気になってきた。そこで、東芝エレベーターに問い合わせたところ、機械室不要で、シャフト内に巻上機を収納する最新式のマシニングルームレスエレベーターがあることを知り、リニューアルを決断した。「万が一、故障したり、お客さまの閉じ込めなどが起きたら大変なことだからね」

08年6月にリニューアルが完了。停電時自動着床装置はもちろんのこと、初期微動を感知するP波の地震時管制運転機能も導入し、安全性はグンと増した。「乗り心地もいいし、静かだし、お客さまも喜んでいきますよ」とにこやかに新美氏。島で最初のホテル大角の顧客第一主義は何年経っても変わらないようだ。



メーカーの立場から…



## 東芝エレベーター株式会社

リニューアル工事には、新しい機材の搬入や廃材の搬出が必要だ。篠島は知多半島からわずか4km先とはいえ、船で運搬する手間などさまざまな苦労があった。

### 島でのリニューアル工事に当初は不安

2008年1月、篠島観光ホテル大角から1本の電話があった。

「ホテルのエレベーターに万が一にも故障があつてはいけない。油圧式のエレベーターは乗り心地がフワフワするので、ロップ式に入れ替えることはできないかというお問い合わせでした」と東芝エレベーター株式会社中部支社営業第二部リニューアル営業担当の植手正勝課長代理は語る。

さっそくホテルを訪ね、シャフト内に制御盤も巻上機も収納するタイプのマシナールームレスエレベーターが開発されたので、機械室も要らないという話をすると新美氏はその場でリニューアルを決断した。

油圧式は、夏場に使いすぎると、オイルの温度が上昇して制御が不安定になることがある。かき入れ時の夏場にエレベーターが利用できなくなつては、宿泊客に迷惑がかかってしまう。また、ロップ式より消費電力が多い。

リニューアル工事の時期は、顧客の最も少ないゴールデンウィーク明けから夏休み前と決まった。社内はこの話が伝わると、81年当時に油圧式エレベーターを設置した工事担当者から「機材搬入は大丈夫か？以前の工事の際は、道も狭く、リヤカーで運んだが…」と心配する声が届いた。

81年頃は海水浴場のあるホテル側まで自動車道路が開通していなかったため、資材の運搬に苦労したが、現在は島の周囲に道路が整備されている。とはいえ、島までは船で機材を運ばなければならない。実は植手は20数年前にメンテナンスを担当していた頃、新美氏に呼び出されたことがあつた。

「夜、くつろいでいると、新美氏から電話があり、エレベーターが止まったからすぐ来てくれというんです。海上タクシーを手配していただけたので、その足で篠島に渡り、直したこともありました」（植手）

それだけに島の状況もよくわかつていた。だが、工事担当である建設部リニューアル工事技術グループの井上貴義は不安だつた。「島でのリニューアル工事は経験がなかったもので、どのように進めたらいいか不安でした。そこで、（知多半島突端の）師崎にあるカーフェリー会社に行き、資材運搬用に船をチャーターした方がいいか、定期便で行けるか相談しました」（井上）

### カーフェリーで機材を運ぶ

結局、定期便が使えることになり、6tトラックに機材を積んで、そのままカーフェリーで篠島に渡ることにした。

今回のリニューアルは、三方柁を残す準撤去リニューアルであつたが、油圧式エレ

ベーターのリニューアルには、工事に通常1カ月がかかる。しかし、なんとしても夏のシーズンが到来する前には完了させる必要があつた。

「綿密にスケジューリングしても天候が悪化して、船が欠航したら機材を運べないし、逆に帰ってこれなくなることもあります。工事期間中、気を揉みましたが、幸い何事もなく無事に完了しました」（井上）

工事をするホテルの5〜7階部分は高台に建っているのので、登れるところまでトラックを入れ、階段下にクレーンを設置、そこからホテルの玄関先まで機材を運んだ。新美氏以下、ホテル側も全面的に協力し、玄関脇やエレベーターホール前を資材置き場として認めてくれ、常駐する工事スタッフのために食事付きで部屋を無償提供してくれた。宿泊客に配慮して、夕方から翌朝までは音の出る工事はできなかったが、それでも予定より早く3週間で工事が完了。08年6月から稼働した。

「新美代表取締役から『よくやってもらった。リニューアルをしてよかった』と言っていたきました」（井上）

植手は「篠島では停電が年に1、2回ほどあるが、停電時自動着床機能があるので閉じ込めの心配はありません」と言う。

新美氏もホッと一安心だろう。



植手 正勝  
中部支社  
営業第二部  
リニューアル営業担当  
課長代理



井上 貴義  
中部支社  
建設部  
リニューアル工事  
技術グループ